

赤ちゃんのきこえの検査 (新生児聴覚スクリーニング検査)について

生まれてきた赤ちゃんの健やかな成長は、誰しものが願うことです。

1,000人に1～2人は生まれつき耳の聞こえに障害を持つといわれていますが、その障害を早く発見して、適切な援助をすることにより、言葉の発達を促し、情緒や社会性を育てることができます。

新生児聴覚スクリーニング検査は、全ての病院が実施しているわけではありません。聴覚検査を実施していない医療機関で出産された場合にも、他の医療機関の外来で新生児聴覚スクリーニング検査を受けることができます。



Q：どんな検査ですか？

赤ちゃんが眠っている状態で小さい音を聴かせて、得られる反応を測定し耳の聞こえが正常かどうかを自動的に判定する検査です。眠っていれば、検査は数分間で終わります。赤ちゃんが寝ている間に終了するため、負担を感じることはありません。薬は使わず、副作用もありません。判定の結果、必要な場合は精密検査を受診していただきます。

Q：検査時期はいつですか？

出産された医療機関では、出生後2～4日に実施しています。

また、出産された医療機関以外で検査を受ける場合、出生後1か月以内に医療機関に受診してください。

※病院によってはオプション検査となっている場合や、実施していない場合がありますので、産院にお問い合わせください。



天塩町では新生児聴覚検査費を助成しています！

【対象者】

検査日に天塩町に住所を有する新生児

【対象となる検査】

自動聴性脳幹反応検査(AABR)、耳音響放射検査(OAE)、又はこれらの検査と同等の結果を得ることができる新生児聴覚検査。初回検査のみが対象となります。

【助成額】

検査料の全額を助成します。

【助成の流れ】

妊婦訪問時に新生児聴覚検査受診票をお渡しします。妊婦健診の受診票と一緒に出産される医療機関に提出してください。

※出産された医療機関で検査を実施していない場合、他の医療機関でも受診票は使用できるため検査をした医療機関に提出してください。

家庭でできる耳のきこえとことばの発達チェック

3 ヶ月頃まで

- ()大きな音に驚く・目を覚ます
- ()音がする方を向く
- ()泣いているとき、声をかけると泣き止む
- ()あやすと笑う
- ()話しかけると、「アー」「ウー」などと声を出す



6 ヶ月頃

- ()音がする方を向く
- ()音が出るおもちゃを好む
- ()両親などよく知っている人の声を聞き分ける
- ()声を出して笑う・「キャッキャツ」と声を出して喜ぶ
- ()人に向かって声を出す

9 ヶ月頃

- ()名前を呼ぶと振り向く
- ()「イナイイナイバー」の遊びを喜ぶ
- ()叱った声「ダメッ!」「コラ!」などというとき、手を引っ込めたり、泣き出したりする
- ()おもちゃに向かって声を出す
- ()「マ」「パ」「ダ」などの声を出す
- ()「チャ」「ダダ」などの音を出す

12 ヶ月頃

ちょうだい」「ねんね」「いらっしやい」などのことばを理解する

- ()「バイバイ」のことばに反応する
- ()大人のことばをまねようとする
- ()意味のあることばではないが、さかんにおしゃべりする
- ()意味のあることばを1つか2つ言える(食べ物のことを「マンマ」、おかあさんを「ママ」など)
- ()単語の一部をまねして言う



1 歳6 ヶ月頃

- ()簡単な言いつけが分かる(「その本を取って」「このゴミを捨てて」など)
- ()絵本を読んでもらいたがる
- ()絵本を見て知っているものを指す
- ()意味のあることばを2つ以上言える
- ()絵本を見て知っているものの名前を言う